

## ヤルタ会談

人間開発学部教授 かとう すえお 加藤 季夫



昨年(2016)の12月にロシアのプーチン大統領が来日したとき、マスコミ各社は北方領土の返還が現実のものとなると大騒ぎをしたが、見事に空振り。相手の大統領はソ連国家保安委員会(KGB)出身なのに対し、日本の首相はお爺さんの岸信介がアメリカ中央情報局(CIA)のエージェントだったとしても両者の格の違いは明白、結局は数千億円の大金を巻き上げられたに過ぎなかった。現在の北方領土問題は1945年2月のヤルタ会談にその一因があるといえる。この会談では、アメリカ大統領のルーズベルトが樺太や千島列島のソ連への引き渡しや満州でのソ連の権益確保などを見返りとしてソ連首相のスターリンに日ソ不可侵条約の破棄、すなわちソ連の対日参戦を要請した。毎年8月になると、ソ連が不可侵条約を破って満州や千島列島を占領したと非難する報道がなされるが、元凶は日ソ不可侵条約の破棄をスターリンに要請したアメリカ大統領ルーズベルトであることは明白で、ロシア(ソ連)にすれば「非難するのであればまず親分のアメリカに…」である。

ヤルタ会談といえばストックホルムに駐在していた陸軍武官の小野寺信を外すわけにはいかない。知将、小野寺はヤルタ会談での「ドイツ降伏の3か月後にはソ連が対日参戦」という情報をいち早く手に入れ、日本の大本営に何度も打電した。ところが大本営はこれを無視し、政府もソ連が不可侵条約を破らなれないと思込み、本気で停戦の仲介役にもなってもらおうと画策するうちに8月15日を迎えてしまった。この小野寺からの情報を現実のものを受け止めておいたならば、沖縄戦や広島・長崎の原爆投下、満州や千島列島へのソ連侵攻などによる多くの犠牲者を生むこともなかった筈である。プーチン大統領の来日の際のマスコミ各社の対応や小野寺からの情報を握りつぶした大本営の判断にみられるように、希望的観測にのみすがったときの結果は無残なものである。

学生の皆さんには、大学での様々な学修を通して物事を総合的・客観的に見る能力を高め、これからの不確実な世界を生き抜いていって欲しいと願っている。

## 世界の音楽への出発点としての日本の音楽

人間開発学部教授 たけし けんしょう 筒石 賢昭



今まで人生を過ごしてきて良く尋ねられるのは、「何故尺八を始めたのですか。経緯を教えてください。」ということである。

何事にも始めるきっかけがある。私は田舎で生まれ(現在新潟県糸魚川市近郊の半農半漁の町)子どもの時から古老の吹く民謡などの尺八の音を耳にして育った。しかしその時代一般に音楽といえばクラシック音楽であったり、西洋音楽を基にした流行歌であったり、日本の伝統的な音楽は片隅に忘れられて置かれ、私も西洋音楽の基礎としてのソルフェージュ、ピアノ、声楽に打ち込み、尺八のことなどは忘れていた。

その後、アメリカに留学していた時、日本音楽のプレゼンテーションをすることになった。そこで武満徹の「ノヴェンバーステップス」を取り上げ、尺八や演奏のビデオを見せ説明をした。その時ある学生から「尺八を実際吹いて見せて下さい。」と言われた。さすがエビデンスを求めるアメリカ人だとたじろいだことを思い出す。当時は勿論「NO」であった。それが悔しくて、帰国してから師匠の門を叩きそれ以来稽古を続けている次第

ある。

アメリカ留学中には、自分が「日本人」だということを意識させられる場面が多々あった。

例えば、アメリカの音楽の先生は、子どもの名を呼ぶときに、階名の「ソミ」で呼ぶ。「ジョニー(ソミー)」という具合だ。日本では「ケンちゃん(レドレ)」「あそぼ(レドレ)」と呼ぶ。このことから、音楽は言語から生まれたことを実感させられた。自分の話す言葉と結びついている日本の音楽を意識し始めた。

音楽は言語とも結びついているが、それぞれの文化とも結びついている。東南アジアには竹に穴を開け、吹く風が鳴らす音を楽しむ楽器がある。日本の尺八も竹に穴を5つ開けた楽器である。まるで尺八の原点だなと思う。中国には簫と呼ばれる尺八のルーツと呼ばれる竹製の楽器がある。自国の音楽を知ると、他との違いや似ているところが分かってきて、世界のいろいろな音楽がもっと楽しくなる。

## 教育実践総合センター事業の主な取り組み

本センターは今年度も、教育実習や教育インターンシップ、教育ボランティア等の「学生支援」、および地域の協定校や教育関係機関との連携等を促進する「地域教育支援」を行っています。

### 教育実習

#### 学生に期待する「内容」

健康体育学科教授 原 英喜



國學院大學で授業として教育実習を担当されている先生方の想いとは違ってしまうかもしれませんが、学生が教育実習に向かうとき、①失敗を恐れないで欲しい、②無難に授業を進めることができたからと満足しないで欲しい、③仕事についてから授業や学校全体の運営の本質に迫れるための肥やしにして欲しい、と思っています。小・中・高等学校の体育実技の授業は、教室での授業と違ってグラウンドや体育館で大きな声で指示を出すことやホイッスルの吹き方を工夫することが求められます。これらは、授業に慣れると誰でもできるようにになりますが、生徒が太陽と向かい合いになり教師の顔が見にくくなることを避ける位置取りなどは、少し考えないといけないかもしれません。このようなことは、しっかり理解させるための手段だと思いますが、授業の内容を豊富にすることはもっと大切だと思います。本学の学生たちに本当に学んできて欲しいのは、この理解させる「内容」についてだと思います。生徒たちが、体を動かすことによって育む感性の豊かさや他人とのかかわり方、そして、自分とは同じ/違う他人の感性や動き方があることを知ることが体育の授業内容だと考えます。ボールを巧みに扱う技術や、安全に、速く、長く泳ぐことは確かに身に付けて欲しいのですが、その結果の優劣よりも、自ら観察して工夫したり、多くの練習方法を試みることで、生徒たちの思考力と行動力の幅を広げる内容を伝える場が授業であることを、学生たちに経験してきて欲しいと思います。

実習後半の研究授業に向けて、指導案で苦労したという学生の声をお聞きします。指導案に苦労するのは、「指導案」の為ではなく、授業に苦労することなのに、そこまで感じてくれる学生は決して多くないと思います。将来に向かって、手段の取得に留まらず、授業内容を豊かにする可能性を広げる指導をして行きたいものだと、自らにも自問自答しています。

#### 教育実習を終えて

健康体育学科 3年 瀬沼 将吾

私が母校の中学校で教育実習を終えてから半年ほど経ちますが、今でも生徒たちや先生方に会いたいです。それほど恵まれた環境で教育実習をさせていただきました。教育実習で感じたことは、生徒は私たちが考えている以上に教師を見ているということです。私が楽しく授業をすることができているときは、生徒も楽しそうについてくれました。逆に緊張しているときには、隠そうとしても「先生、緊張しているでしょ」と見抜かれてしまうこともありましたが、教壇に立って話す私たちを見る生徒の目は驚くほどに真っ直ぐで、生徒は私たちが思っている以上に素直です。実習前に担当の先生から「教師が何を語るかでクラスの成長が決まる」と指導していただきましたが、改めてその言葉の意味と教師の責任の重さを実感することができました。

また、授業や学校生活においては生徒との信頼関係が何より大切であるということも強く感じました。実際に何度も授業中に生徒に助けられ、良い関係があって初めて良い授業ができるということを体験することができました。良い関係とは甘やかすような、楽な関係ではありません。時に言いたくないことも言わなくては行けない、答えを教えてあげたくても生徒のためにあえて失敗させる、生徒の成長を第一に考えられるような関係だということを感じました。短い間でしたが、たくさん話して、たくさん褒めて、時々叱って、良い関係を築くことができたのではないかと思います。生徒との別れはとても辛いものでしたが、それだけ楽しく、充実した3週間でした。3週間を通して私が体験したことは、教師という仕事のほんの一部でしかないということが先生方を見てよくわかりました。私にはまだまだ勉強しなければならないこと、経験すべきことがたくさんあります。「絶対に教師になる」という想いを持って、胸を張って教壇に立てるようにこれから先も人として成長していきたいと思っています。

## 教師塾

各自治体の教育委員会では、質の高い教員の確保を目指して、教員の養成、採用、研修を一連のものと考え、さまざまな教員養成のシステムを作っています。本学近隣の自治体で行っている教員養成のための「教師塾」には以下のようなものがあり、本学の学生も多く参加し学んでいます。教育実践総合センターでは、こうした学生の支援も行っています。

### ①東京都 東京教師養成塾 1年間

特別教育実習40日以上、講義・ゼミ20回程度、体験活動5日間

### ②埼玉県 埼玉教員養成セミナー 9か月

学校体験実習45日、講義・演習13回、体験活動3日間

### ③横浜市 よこはま教師塾「アイ・カレッジ」 9か月

講義、教師体験プログラム、学校行事参加等

### ④神奈川県 ティーチーズカレッジ 8か月

講座14回、学校での学習支援12日以上

### ⑤千葉県 教職たまごプロジェクト

学校における実践研修30日以上、教育事務所における研修

### ⑥相模原市 さがみ風っ子教師塾 6か月

講義16日、学校実習10日間程度



### 東京教師養成塾

初等教育学科 4年 すぎもと 杉本 わたる 渉

私は、授業の実践力を高めて教師1年目を迎えたいと思い、東京教師養成塾に入りました。

養成塾での小学校実習は4月から2月まで1年間あり、私は実習校の入学式から見させていただきました。授業実践は、始めのうちは計画通りにさえいかず、指示も発問も滞ったものばかりでした。子供の考えが見えておらず、どうやって授業を改善したらいいのかわかりませんでした。しかし、教科等の指導法や教育に関わる内容の講座を受け、養成塾の班で情報共有をして、そこから授業のみならず生活指導のヒントも見つけることができました。特に夏休みの期間や合宿で、班の10人で話し合いながら一つの授業を作ったことは、授業づくりや理想の授業・子供・教師像について学ぶことができたよい経験です。

実習や講座の他に、企業での体験活動、中学校や特別支援学校の見学など、小学校以外の様々な場所での経験もできました。養成塾は忙しいですが、その分子供たちとの触れ合い、知識や実践力が得られ、教師を目指す自分を見つめ直すことができました。

### よこはま教師塾「アイ・カレッジ」

初等教育学科 4年 あんどう 友希 ゆき

私は、よこはま教師塾「アイ・カレッジ」で、自らを「鍛え」「磨き」「高める」姿勢を学ぶことができました。

多くの講座がありましたが、特に印象に残っているのは授業力養成講座です。この講座では、同じグループの仲間と教材研究や模擬授業を行いました。私はこの講座を通して、入塾前にはもっていなかった子どもたちの視点で、授業を組み立てて行うことができるようになったと思います。

また、講座の時間内では話し合いがまとまることができなかつた際は、自主的に塾生で集まり納得いくまで話し合いを繰り返しました。お互い本音で、アドバイスし合える仲間ができたのも「アイ・カレッジ」で得たものの一つだと感じています。

私は、入塾して横浜で教師になるという意思がさらに強くなりました。これからも「アイ・カレッジ」を通して出会ったたくさんの縁を大切に、子どもとのかかわりを大切に、常に自己研鑽する教師を目指していきます。

## 教育インターンシップ連絡協議会

12月2日(金)に開催しました

全体会では、学生の実習報告と学校や幼稚園・保育園の先生方からの実施状況報告がありました。幼稚園実習について子ども支援学科の宮地愛美さんと木村つばささん、保育所実習について菊池桃香さんと山内夢子さん、小学校実習について初等教育学科2年の鈴木知美さん、菊池康平さん、吉谷紗良さん、草野真輝さん、松永悟さん、中学校実習について健康体育学科の崎山一成さんと根岸早葉子さんが経験について報告しました。各園や学校の実施状況については、市ヶ尾幼稚園副園長の高橋幸代先生、ポート金が谷施設長の星頼子先生、横浜市立桂小学校長本田正道先生、横浜市立奈良中学校長宇都宮敏昭先生からお話をいただきました。



校種別に分かれた分科会では、テーマを「教育インターンシップの経験を教育実習にどう生かすか」と設定し、グループ別に活発に意見交換をしました。ご参加いただいた先生方からの豊富で具体的なアドバイスをもとに学びを深めました。



## 未来塾

開講講座は「9講座」、延べ受講者数は「576名」でした

今年も「未来(みらい)塾」が開かれ、それぞれの講座で特色ある取組が行われました。

講座名	担当	開講回数と受講者数
<b>高山真琴 先生の「ピアノ講座」</b> 1 教採・ピアノ講座 2 東京都公立幼稚園教採対策ピアノ講座	高山 真琴 教授	59回開講、延べ受講者数164名 67回開講、延べ受講者数307名
<b>原 英喜 先生の</b> 講座1 泳ごう、泳げるようになろう！ 講座2 臨海学校見学と小遠泳体験 講座3 体育的・集団宿泊的行事としてのスキーを学ぶ	原 英喜 教授	11回開講、延べ受講者数 22名 千葉県南房総市 8月に1泊2日 受講者数 5名 長野県志賀高原 3月に2泊3日の予定
<b>一 正孝 先生の</b> 講座1 テニスの楽しみ方 講座2 オリンピックを学ぼう！	一 正孝 教授	12回開講、延べ受講者数 52名 4回開講、延べ受講者数 6名
<b>坂本 正徳 先生の</b> 講座 小学生が学ぶ「プログラミング」を体験しよう	坂本 正徳 教授	2回開講、延べ受講者数 2名
<b>石川 清明 先生の</b> 講座 保育と教材の研究	石川 清明 教授	6回開講、延べ受講者数18名